

女性教職・教職配偶者のサポート情報誌

WOMEN IN MINISTRY

巻頭言

「奪還」—新しいチャレンジ—



澁谷 久美子

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。」(詩篇 126:5)

今年の春、神様は私たちに新しいチャレンジを与えてくださいました。盛岡福音キリスト伝道所の働きを担い、青森ジョイフルチャペルとともに兼牧する事です。そこは、前任の先生方や信徒の方々による、とりなしの祈りと涙の種まきがされて来た地であり、その祈りは神様に全て覚えられています。

青森教会のとりなしチームで盛岡の町に入り、祈りながら移動していると、多くの観光客が古くから残る盛岡城の跡に行くのを見かけました。私たちは、人の名を残そうとするその城跡でも祈ろうと思い、心の中で賛美しながらその場所に上りました。そして、周りの人々に気づかれないように「主こそ、この町の神である」と宣言し、「この町の主権は、天地を造られた主にある」と信じて祈りました。それは、奪われてきたものを神の御手に取り戻す「奪還」の祈りでした。

青森から盛岡までは185キロ。往復の道は長く、奉仕に行くチームにも犠牲が伴います。けれども、「神様がこの地に必ず実を結ばせてくださる」と信じるとき、心はワクワクと期待と賛美で満たされます。神ご自身がヴィジョンを成し遂げ、宣教を拡大し、御名の栄光を顕してくださいその日を信じています。「涙」という漢字には、(水)と(戸)と(大)という字が含まれています。涙の祈りは、やがて偉大な神のリバイバルの扉を開く鍵です。

決して祈りは、無駄ではありません。主は、その一粒一粒を受け取り、御業の種として用いられます。現在二つの教会をオンラインで繋ぎ礼拝や祈禱会を共にしています。次世代の救いを祈っていましたが、盛岡の学校からの講演の依頼もいただき、学校に入る扉も開かれています。神様の働きは確かに前へと進んでいます。現在の教会の場所である住宅地から、町の中心へ出て行けるように祈っているところです。また、東北教区の北地区(青森、盛岡、釜石、秋田)が一つとなり、盛岡だけでなく北地区それぞれの教会の祝福とリバイバルを願い、聖会を行い祈り合っています。これは、北東北全体が神の御業を拝するのための大きな一歩でもあります。また、このチャレンジは、愛と一致を実践する恵みとなっています。

主こそ神であり、大いなる収穫を与え、奪還してくださる希望を胸に、今日も信仰の一步を踏み出していきます。ハレルヤ!



02 【特集】証

03 「準教師を整えるチャレンジ」 | オンライン勉強会報告 | 総会報告

04 【学びのコラム】グリーフケア | 室員紹介



教団・教区への関わりのチャレンジ

地方で牧会していると、どうしても教団のことは、あまり目が向かず、自分が赴任している教会と地域のことに意識が向けられます。遠くにあるアッセンブリーの教会より、県内の他教団の教会との関わりが濃くなっていきました。

それがコロナ禍以降、大きく変化していきました。オンラインでの勉強会、女性教職の交わりなど、以前より教団を身近に感じる機会が増えました。特に、女性活躍推進室の「教団の規則・教規の学び」は興味深く、自分がこのような分野に興味を抱くことに驚いています。補足ですが、他教団の牧師さん



川西 映子

から「日本の教会が閉塞感の中にあると言われる中でも、アッセンブリーは積極的に伝道に取り組み、成長していて素晴らしいですね！」と声をかけられることが、ここ数年増えています。

兼牧ママ奮闘記

これまで牧会していたシャロンキリスト教会に加えて、今年の4月から川尻キリスト教会の兼牧が始まりました。以前から、教会での説教奉仕が少ないことに迫りを感じつつ、行動に移せなかった私に“兼牧”の話が出たのです。主が「やりなさい。」と言われたと受け止めて、毎週教会で説教奉仕が始まりました。牧会、説教、家事、子育て、学校行事、地域の事などやる事があり、主人と分担して協力。日曜日は家族揃って礼拝に出られず、半分に分かれます。一番そばで見ている子どもたちには、神を信じ、主のために生きる喜びを知ってほしいと願い、祈っています。新たなチャレンジを通して、主は私をどのような器にさせようとしているのか、楽しみです。



上田 恵美子

宣教師との協働牧会

神学校を卒業し、最初に主に遣わされたのは、宣教師マクレオン先生ご夫妻が開拓された富山県福岡町キリスト教会でした。若い私たちを、先生方は主の愛で包み、導いてくださいました。宣教師館では、多くの若い宣教師たちと祈り、賛美し、仕える喜びを分かち合い、それが私たちの原点となりました。東京での開拓では、パリス先生ご夫妻が共に歩み、家族で仕えることの尊さを教えてくださいました。今はロズリン先生が日本語で御言葉を語り、主の火を受け継いでいます。その他、多くの短期宣教師、チームとの出会いがありました。



林 恵美子

宣教師たちとの協働を通して、福音は世代と国を越えて広がり、東京メトロチャーチもその恵みの流れの中に生かされていることを、感謝しています。

新たなチャレンジ

ヨシュアは年を重ねて老人になった。主は彼に仰せられた。「あなたは年を重ね、老人になったが、まだ占領すべき地がたくさん残っている。」

ヨシュア13：1

私は高齢者センターの織物グループと老人会の卓球グループに入っています。まず友人作りのために、好きな手作りお菓子をきっかけにしました。教会の場所でのコーヒーとお菓子のお茶会や食事会に4、5人ずつ代わりながら来てくれる様になり、食前にはお祈りをします。昨年は10名が教会のクリスマス礼拝に来てくれました。彼女たちに福音が受け入れられる事が私の祈りです。老人になってこそ出会える人々がいます。生きている限り神様と人を愛していきたいと思っています。



横山 聖子

準教師を整え奉仕に就かせるチャレンジ

2022年11月教団総会に於いて準教師制度が可決。私たちの教会では申請後2023年12月から渡邊由美子準教師の奉仕がスタートした。数力所の地域協会からの要請で郡山メンバーの日曜礼拝奉仕派遣を15年以上行っていたが、彼女もその担当者として数力所の教会での奉仕も続けていた。改めて「準教師」としての働きの内容や奉仕の種類を主任牧師たちと確認しながら、礼拝、祈祷会での説教、ライフグループのリーダー、又地域の子もたちへのミニストリーや、ノンクリスチャンへのバイブルスタディを導く。東北教区の許可を得て、教区会にも陪席参加をすることにより次世代への宣教を共に担うチャレンジを続けています。



室長：三箇豊実



オンライン勉強会報告

10月3日、オンライン勉強会を行いました。講師に、日吉成人師、中里恵美師、内川高志師を招き、教団加入者研修のミニ体験版をしていただきました。今回は女性教職、教職配偶者だけではなく男性教職も参加して下さい、学びを通して共にテーマの「AG 教職である恵み」を受けとることができました。ブレイクアウトルームを活用して、分かち合う時間を持ち、また恒例になった抽選会も行い、楽しい勉強会となりました。これからも、「AG 教職である恵み」を主に感謝しつつ、魂の救いのために励まし合い、祈り合って行きましょう！



室員：本田基枝

女性活躍推進室主催

オンライン勉強会 教団のことをもっと知ろう



総会報告

今年から教団総会は6月に完全オンラインによる決算総会、11月の予算総会の分離開催になりました。神学校のチャペル側に議場の向きを変え、正面には私たちが進もうとしているMM33のバナーを立て3日間の審議が始まりました。

通常の議案の他、職制変更に伴う部署名や現状に即した担当者名に教規の文言を修正することも総会で承認されると実施されます。方針案に記された教団資産の有効活用とは、諸教会の宣教資金や建築資金、また教団高齢年金の財源確保を目的としていますが、この総会では扱わないで臨時総会を開いて丁寧な説明と十分な審議時間を確保することになりました。

3日間でゆとりがあるように思いましたが、審議は流れるように進むため、議案をしっかりと読んでおかないと理解も質問も追いつかない気がしました。

また今回からオンライン傍聴の扉が開かれました。相当数の傍聴者が居ると期待しましたが僅か1名でした。次回はぜひ総会に関心を持って傍聴してみませんか。



室員：中里恵美





大切な人を亡くした時に…



室員：野川悦子

【どんな人でも】

教職者やその配偶者、リーダーの方々は、いつも大切な人を亡くされた方を支える側に居られることと思います。でも自分が体験した時のことを考えたことがあるでしょうか。教会の兄弟姉妹の方々は牧師先生が大切な人を失った時、どうされるでしょう…。教職者だから大丈夫。天国の望みを持っているのだから…。天国への凱旋なら悲しいわけがない。主がそばに居られるのだからすぐ立ちあがって、いつもと同じになるだろう…。そのように思っていないでしょうか。でも牧師も大切な人を失って悲嘆（グリーフ）にくれること、グリーフケアが必要なことはあるのです。

【失った時に起こること】

大切な人を亡くした時に様々なことが心身に起こることがあります。強い悲しみ（涙が止まらない）、罪悪感（もっとできることがあったのでは。あの時こうしていれば…）、怒り（自分や亡くなった人、医療関係者、家族、神に対して）、無力感、虚無感、思考がまとまらない、集中できない、記憶力の低下、食べられない、過食、眠れない、人と会いたくない、誰にも理解されていないと感じる、信仰の低下、気力がなくなる、牧師にもかかわらずこのようになって情けないという思い…。でもこれらは異常ではなく、正常な悲嘆反応です。牧師なのに、と自分を責めることはありません。長く強く症状が出て、日常生活に支障が出るようなら、専門的サポートも受けましょう。

【必要な助け】

そんな時、出来るならこのようなことを行ってみてください。

①一人にならず、誰かに居てもらう

気の利いた言葉やアドバイスはなくても、誰かがそばにいてくれるだけで癒されます。

②悲しみを否定せず、感情を正当なものとして扱う

湧き上がってくるさまざまな感情は回復のプロセスの一部だと思ひましょう。

③思い出を語る

故人を忘れよう、忘れようとし、話題に出さないのではなく、どんな人だったか、どんなことがあったか、写真を見たりしながら語りましょう。また、故人を知る人から思い出を聞きましょう。誰もいない時は思い出を文章にしたり、故人宛ての手紙を書いてみましょう。

④手伝ってもらう
買い物や役所手続き、片付けなどのサポートも誰かに手伝ってもらいましょう。

⑤霊的な悲嘆も赦してもらう

神に対する怒りや疑いや空しさが湧いて来ても、「そんなこと思っはいけない」とせず、正直な祈りや嘆きを神に打ち明けましょう。詩篇 3, 13, 22, 42, 88 篇などを読んでみましょう。

⑥孤立しない

人と会いたくなくなりませんが、だめな自分を出しても大丈夫な人や小グループにはなるべく繋がりを持ちましょう。

⑦節目の悲しみに気をつける。

葬儀直後よりも、少し時間が経ってから孤独が深まることがあるので、3 か月、半年、1 年後や記念会など、一人で過ごさないようにしましょう。

【悲しみの形】

悲しみは、急がせず、励まし過ぎず、修正せず、答えを押しつけない中、誰かが一緒に居てくれることで、生きていける形へと変容していきます。自分のそばに兄弟が居てくれることを忘れずにいましょう。そしてイエス様がどんな時も、自分がどんな状態になっても、自分と共に歩いてくださっていることを思い起こし、少しずつ少しずつ変わっていることを心に留めておきましょう。その深い悲しみがやがて誰かを励ますものに変わっていくことを信じて、今は辛くても死なずに生きていきましょう。

※ついに日本に女性の総理大臣が誕生しました！女性はリーダーになれない。特に政治の世界ではその道が閉ざされていたかに見えていましたが、アメリカより先に日本の政界のトップに女性が就任したことをとても素晴らしいと思いました。心身を壊さず良い賜物が発揮され正しい選択をしつつ頑張って戴きたいと祈っています！

教職局 女性活躍推進室 室員紹介



室長
三箇豊実



室員
野川悦子



室員
中里恵美



室員
林恵美子



室員
上田 恵美子



室員
本田基枝